

## 文化・芸術

### 「鉄橋近く」

1943年12月、鉛筆、木炭、紙  
37.7cm×45.0cm（個人蔵）

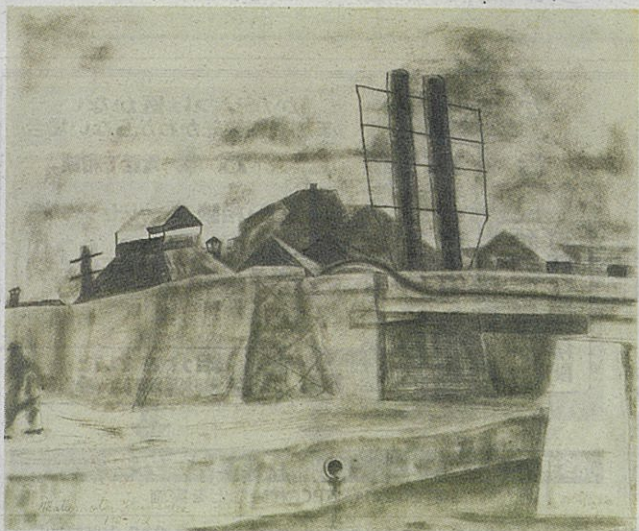
松本竣介（1912～48年）

「鉄橋」は、竣介が好んで描いたモチーフの一つです。「ニコライ堂」や「Y市の橋」に比べると、残された油彩画は2点と少ないものの、1943～44（昭和18～19）年にかけて多くの素描が描かれています。

本作の取材地は、山手線五反田駅へとつながる鉄橋が目黒川にまたがる辺りと伝わります。線路とその下を流れる川とが交差する風景を、角度を変え、建造物の配置を整理しながら組み立てています。

戦局の悪化にともない、自由な制作も発表もできなくなりつつあった時代の中で竣介は、この街を覆う鉛色の空の重苦しさと対峙しています。一見均質でやわらかなトーンの筆触で覆われた画面と思いきや、屋根や塔に目を向けると、そこには鉛筆の強い筆圧によって磨き上げられ黒光りする風景が見とれます。異様なまでの静寂です。

（小此木）



### 名画の扉

大川美術館企画展「生誕110年記念  
松本竣介デッサン50」から